

4 令和4年度 後期教職員自己評価集計結果

I 学校経営・組織・安全管理

NO	評価項目	回答数	R4 後期	判定	R4 前期	R3 後期	4の 回答数	3の 回答数	2の 回答数	1の 回答数	肯定的 回答%	否定的 回答%
1	学校教育目標の達成に向け、学校経営方針に基づいた学校運営がなされている	28	3.6	A	3.8	3.7	17	11	0	0	100%	0%
2	教職員間の相互理解が十分になされ、信頼関係のもと協働的に教育活動が行われている	28	3.4	A	3.4	3.4	12	15	1	0	96%	4%
3	施設設備について定期的に点検し、結果を的確に処理（整備・保全）している	28	3.8	A	3.9	3.9	23	5	0	0	100%	0%
4	事故や災害等に対し、適切な対応マニュアルが整備され、危機管理に努めている	28	3.8	A	3.8	3.8	21	7	0	0	100%	0%
5	生徒の個人情報について、適切に管理・保護されている	28	3.3	A	3.5	3.6	9	18	1	0	96%	4%
6	新型コロナウイルス等について、正しい知識で感染防止対策に取り組むよう努めている	28	3.7	A	3.8	3.8	20	8	0	0	100%	0%
7	ライフ・ワーク・バランスを意識した業務改善に取り組んでいる	26	3.2	A	3.1	3.5	9	15	1	1	92%	8%

【記述による回答】

- ②職員の中に周囲に聞こえるようなため息やドアを強く閉めるなど、周りが不愉快な気持ちになる言動がある職員がいるので、周りのことも考えて行動してもらいたいです。
- ②⑦職員会議が長く、時間がかかりすぎていると思います。職員会議は確認の場だと思いますので上が決めるべきことは上が決めたくて下におろしてほしいです。連絡事項もお伝えしましたがと言われますが、運営の内容など伝わらないことが多いです。さらに、余計な話が多すぎて結果何の話なのかわからなくなります。目的外の話は控えめにお願いしたいです。
- ライフワークバランスも個人次第になっていると思います。やるが増えているだけに感じています。
- ⑦業務改善とうたっているが、業務上改善されている部分はなく、むしろやるが増えている。結果それぞれの職員が個人の働き具合で調整しているだけになっている。
- ⑦勤務時間の改善に取り組みたい気持ちはあるが、一方に教員の不足もあり、なかなか効果のある手が打てずにいると思っています。皆で意識し、声を上げていかないといけない部分だと思います。
- ⑦部活動による時間外労働が原因。改善策として朝練の廃止等の量的な改善策が必要だと思います。

II 教育課程・学習指導

NO	評価項目	回答数	R4 後期	判定	R4 前期	R3 後期	4の 回答数	3の 回答数	2の 回答数	1の 回答数	肯定的 回答%	否定的 回答%
8	新学習指導要領に基づき「社会に開かれた教育課程」の実現に向けた教育活動の実践を目指している	27	3.5	A	3.6	3.6	13	14	0	0	100%	0%
9	校内研究の主題である、学び合いを通じた確かな学力の向上に向け、授業改善に取り組んでいる	27	3.6	A	3.6	3.7	17	10	0	0	100%	0%
10	道徳の授業の充実を努めるとともに、他者を思いやる心や規範意識を育てる教育活動を日常的に実施している	26	3.5	A	3.5	3.6	14	11	1	0	96%	4%
11	GIGAスクール構想の実現に向け、1人1台端末の積極的な利用に努めている	27	3.4	A	3.4	3.7	12	13	2	0	93%	7%

【記述による回答】

- ⑩例えば休日に部活動で利用したいというときにユーチューブが利用できないとか、生徒自身にきちんと管理させきれていないとか、色々と利用に消極的になってしまう自分があるので、改善していきたいです。

Ⅲ 生徒指導・教育相談・特別支援教育

NO	評価項目	回答数	R4 後期	判定	R4 前期	R3 後期	4の 回答数	3の 回答数	2の 回答数	1の 回答数	肯定的 回答%	否定的 回答%
12	生徒の問題行動に対し、報告・連絡・相談の体制が確立され、共通理解の上で組織的に対応している	27	3.6	A	3.5	3.7	15	12	0	0	100%	0%
13	いじめの早期発見に努めるとともに、早期解決に向けて組織的に取り組んでいる	27	3.5	A	3.7	3.7	13	14	0	0	100%	0%
14	保護者との対応や関係諸機関（SC・SSW・SS等）との連携が、スムーズに行われている	27	3.6	A	3.6	3.7	15	12	0	0	100%	0%
15	養護教諭やスクールカウンセラーなどとの連携が、教育相談に生かされている	27	3.7	A	3.8	3.7	18	9	0	0	100%	0%
16	「師弟同行」を実践するとともに、教師が生徒の模範や理解者・支援者となりえている	27	3.4	A	3.4	3.5	12	14	1	0	96%	4%
17	不登校傾向のある生徒の支援に配慮し、必要に応じて関係機関と連携を図りながら対応している	27	3.4	A	3.4	3.6	10	17	0	0	100%	0%
18	特別支援教育について共通理解が図られ、保護者や生徒の抱える諸問題に真撃に対応し、個別の支援計画に基づいて手立てが進められている	27	3.4	A	3.4	3.5	11	16	0	0	100%	0%

【記述による回答】

⑩生徒のお手本や理解者でありたいが、授業時数の多さや課題を抱える生徒に多くの時間を割かれ、休み時間に余裕をもって生徒と会話をすることができない。（⑦にも関連）

Ⅳ 特別活動

NO	評価項目	回答数	R4 後期	判定	R4 前期	R3 後期	4の 回答数	3の 回答数	2の 回答数	1の 回答数	肯定的 回答%	否定的 回答%
19	学校行事や生徒会活動等の取り組みが、生徒の自主性や協調性を養い学校生活の充実につながっている	27	3.4	A	3.6	3.6	10	17	0	0	100%	0%
20	部活動は、主体的・意欲的な取り組みを通じて達成感を得られるよう、運営の工夫がなされている	27	3.5	A	3.5	3.8	14	13	0	0	100%	0%
21	合唱を推進する活動が、計画的・効果的に行われ、生徒の心の教育や集団づくりに役立っている	26	3.2	A	3.2	3.5	7	17	2	0	92%	8%
22	朝・帰りのあいさつ運動などを通して、あいさつができる生徒の育成に努めている	27	3.1	A	3.3	3.5	6	18	3	0	89%	11%

【記述による回答】

⑩生徒会役員選挙でも「校則の改正」が色々な生徒から挙がっている。来年度は現代に適さない校則について、生徒会と話し合いながら改正していけると良いと思う。

⑪⑫合唱や挨拶はコロナ禍でマスク生活、黙食、…となってから『自分を出す』ことが不得手な生徒が増えてきたように感じています。だからこそ、力を入れて取り組みたいところですが、思ったように取り組めていないと感じています。

⑬あいさつは年々できなくなっていると感じている。生徒会主導で、学年生徒会などと連携し取り組むべき課題だと感じる。

Ⅴ 保護者・地域連携

NO	評価項目	回答数	R4 後期	判定	R4 前期	R3 後期	4の 回答数	3の 回答数	2の 回答数	1の 回答数	肯定的 回答%	否定的 回答%
23	生徒の学習や生活の様子を保護者に知らせ、保護者との相互理解を図り、連携している	27	3.6	A	3.6	3.6	15	12	0	0	100%	0%
24	各種たよりやホームページ・学校連絡メールを活用し、保護者や地域への情報提供に努めている	27	3.6	A	3.7	3.7	17	10	0	0	100%	0%

【記述による回答】

とくになし

VI その他

昨年度なかった項目

NO	評価項目	回答数	R4 後期	判定	R4 前期	R3 後期	4の 回答数	3の 回答数	2の 回答数	1の 回答数	肯定的 回答%	否定的 回答%
25	小中一貫教育のねらいを理解し、小中連携を意識した教育活動の推進に努めている	26	3.2	A	3.3	-	6	18	2	0	92%	8%

【記述による回答】

⑳（ふるさと探究）感染拡大防止で小中の教員で集まるのが難しいため、それぞれの校種で具体的にどういうことで連携を図っていくのかが、曖昧な気がします（私がよく分かっていないだけかもしれませんが、すみません。）

メモ

5 後期教職員自己評価の考察

(1) 教職員自己評価集計結果の概略

教職員自己評価については、28名（非常勤・市職員含む/職務内容により回答不能な項目は未回答）より回答を得た。評価対象である全25項目が、回答平均3.1以上のA判定であり、全ての項目について肯定的な回答が89%以上の結果となった。内訳についてみると、前期比で0.1上回った項目が2、0.1下回った項目が6、0.2下回った項目が5、残りの12項目は同等の数値であった。また、肯定的回答率に着目すると、100%の項目が16、92~96%の項目が8であり、89%の項目は1（前期同項目81%）となっている。数値的には前期比で下がった項目もあるものの、以上の全体的な結果から、引き続き本校の教職員が、学校教育目標並びに学校経営方針を概ね意識して教育活動（職務）の遂行に努めていることが見てとれる。

しかしながら、評価平均3.5未満（※A判定であるものの、やや低めであると判断）の項目も複数見受けられる。次年度に向け、より充実した教育活動推進のため真摯な分析・検討を行い、課題や改善点を明確にしておく必要がある。

まさに波のごとく到来する新型コロナウイルス感染症の感染防止に向けた対応の継続と新たな校務支援システム（グループウェア含む）移行への即応が求められるなか、部活動の地域移行を含めた働き方改革等の新たな教育課題も山積している。整理しつつ、かつ関連性をもたせながらの改善を心がけておきたい。

(2) 各分野の考察

I 学校経営・組織・安全管理

①「学校教育目標・学校経営方針に基づいた学校運営」の項目は、前期比で0.2低下してはいるものの、平均3.6で肯定的回答率は100%であった。

②「教職員間の相互理解と協働的な教育活動」の項目は、前期同様ではあるが3.4とやや低い評価が示されている。検温対応による朝の打合せ削減の継続と新校務支援システム移行への未適応は、相互理解の不十分な要因の一つと推測される。新校務支援システムは、今後も永続的に運用されていくものであるため、早期の適応が必須である。また、今年度は運営委員会が金曜日の6校時に設定されていたことから、伝達が週明けとなるケースもみられたので、次年度の改善課題としたい。月曜日定例の終礼を実施し、十分な改善ともいえないが、以降も継続するとともに、多忙な毎日ではあるものの、日常の会話（報告・連絡・相談など）を充実させていくことも大切である。また、記述回答に指摘があるように、併せて職場内でのマナーにも相互に気配りができるようにしたい。

⑤「個人情報の適切な管理・保護」の項目は、3.3（前期比-0.2）と低めの数値が示された。物品や資料等の管理については、認識に個人差があるようなので、意識を高めていく必要がある。本校は、スペース的には比較的恵まれている為、物品を整理し保管場所確保を逐次進めている。また、「生徒理解票」など個人情報の記載された資料は、データ化してPC上で閲覧できるようにした。なお、生徒による職員室清掃の削減についても次年度の検討課題としたい。

⑦「ライフ・ワーク・バランスと業務改善」の項目は、3.2と前期比では0.1ポイント向上したものの、依然として低めの値が示された。年次休暇等の取得については、比較的柔軟に対応できるようになってはいるものの、勤務時間（時間外勤務）については意識の持ち方に個人差があるため、再度意識改革を徹底したい。また、新校務支援システムの運用に適応しきれず多忙感を抱える教職員もみられるため、早期の順応を進める必要がある。職場として、勤務時間外の電話対応については音声ガイダンスに切り替え、朝の欠席連絡もフォームを用いて運用を図っているが、まだ十分な効果には至っていない。一方、今年度は小中一貫教育の推進に加え、2つの研究指定を受けていることから、業務内容の加重を感じる職員も少なからずみられる。加えて、コロナ禍への対応も含め新たな課題や業務も生じてきていることから、職場内だけの改善には困難さも感じられるのが現状である。今後部活動の地域移行については、具体的に計画が進められ、状況は大きく変化していくものと予想されるが、県教委・市教委ならびに地域との連携を図るなかで、少しでも多忙化の解消につなげていきたい。なお、記述回答に

ある職員会議についての認識には誤解もみられるが、可能な限り精選した運営に努め、多忙感の解消に寄与したい。

II 教育課程・学習指導

本分野は、4項目中2項目が肯定的回答率100%、1項目が96%、もう1項目が93%であった。依然としてコロナ禍への対応に苦慮しながらも、学びを止めない為の取組みや工夫を継続して実践できている成果とみてとれる。

11「GIGA スクール構想実現に向けた端末の積極的利用」の項目については、前期同様の3.4ポイントとやや低めの数値が示された。儀式的行事や生徒会行事のリモート開催をはじめ、多くの教職員が日常の授業の中で端末を活用しているが、依然として機器の取扱いを苦手としたり、活用の為の準備に時間を割けない教職員も一定数おり、改善の必要性が求められる。比較的活用に堪能な職員も複数いるため、互いに授業を見合うなどして教え合い・学び合いの場を設けたい。また、特別教室や体育館での端末利用に向けた環境の設定や、休日部活動での端末制限については、すでに一部検討中のものもあるが、市教委に要望していきたい。

III 生徒指導・教育相談・特別支援教育

本分野は、7項目中6項目が肯定的回答率100%、1項目が96%であった。

12「報告・連絡・相談体制の確立と組織的な対応」の項目は、3.6と前期比で0.1ポイント向上している。

13「いじめの早期発見・早期解決に向けた取組み」の項目は、3.5と顕著に低い値ではないが、前期比で0.2ポイントの低下がみられた。対応の一部に長期化がみられることもその一因と考えられるが、個の特性や家庭事情も関係するため、根気よく取り組む必要もある。

16「師弟同行の実践と生徒の模範・理解者・支援者」・17「不登校傾向の生徒支援」・18「特別支援教育についての共通理解」の項目は、前期と同様に3.4とやや低めの評価が示された。

不登校傾向にある生徒は、継続的に各学級担任を中心に丁寧に対応しているが、今後も保健室における支援やSCによる助言、また外部機関への支援要請や必要に応じてはフリースクール等への通所も選択肢に含め、個に応じた柔軟性のある対応を職員全体で共通理解して進めていく。現状では、WING教室に2名（検討中や中断の生徒を除く）が通所してお世話になっている。

特別支援教育に関わっては、通常学級内にも様々な特性を抱えた生徒が複数みられる。学年職員や支援担当職員を中心に対応しているが、学年内だけでは人的に困難な場面もみられる為、管理職も含め巡回しながら臨時的に対応している。今後も必要に応じては、全校体制で関わられるような調整を図っていく。また、計画的に実施された校内支援委員会を通じて得られた方策や共通理解をもとに、全職員一丸となりチームとしての取組みを充実させていきたい。

記述回答に「もっと生徒と関わりたいが、授業時数の多さや問題を抱える生徒への対応により困難になっている」旨の指摘がみられる。今年度、教科によっては予定した配置がなされず負担増となっているところもある。I7「ライフ・ワーク・バランスと業務改善」のところでも述べたが、職場内対応だけでは如何ともしがたい部分もあるため、適切に県教委・市教委ならびに地域との連携を進める必要がある。

IV 特別活動

本分野は、4項目中2項目が肯定的回答率100%、1項目が92%、もう1項目が89%であった。

19「学校行事や生徒会活動等の取組み」の項目については、前期比で0.2ポイント下回る3.4とやや低い値が示された。予定した行事等は概ね実施できたものの、コロナの影響が想定外に継続し、リモートでの開催や内容縮小による時短等といった制限が含まれていたこともその一因と考えられる。また、記述回答に指摘されている「校則の改正」についても、生徒会活動の一環として学校サイドと調整が図れるように進められると良い。なお、関連内容として、将来を見通して考えるならば、部活動が地域移行された際、全校生徒が関わられる生徒会活動の

主軸は委員会活動が考えられる。定例化するなどして、より生徒が主体的に取り組めるような体制づくりが望まれる。

21「合唱活動の推進」の項目については、前期同様の3.2と低い数値が示された。新稲祭文化の部については、保護者の参観を伴って予定どおり実施できたことは幸いであったものの、日常の学校生活における合唱活動は、マスク着用をはじめ活動場所等の限定もあり、結果として「計画的・効果的に行われ、生徒の心の教育や集団づくりに役だっている」とまではたどり着けないのが現状である。

22「あいさつができる生徒の育成」の項目については、前期比で0.2ポイント低下の3.1と低い数値となった。肯定的回答率も全項目中最低の89%であった。生徒アンケートの回答結果からは、あいさつに関して特段に低下した自覚は認められないものの、経年的な判断を伴う教職員の視点からは、低下傾向が認められるということであると推測される。コロナの感染状況にも左右される部分ではあるが、生徒会活動（委員会活動）を通じて、生徒が主体的に取り組める活動を仕組みると良い。

V 保護者・地域連携

2項目とも肯定的回答率100%であった。

23「保護者との相互理解と連携」は、前期同様の3.6であった。昨年度実施を見合わせた2学期の道徳公開（授業参観）については、同一日に時間帯を分散したかたちで実施することができ、全家庭の1/3以上の保護者に参観いただいた。また、学期末の三者懇談については、感染防止対策を講じながら当初の計画どおり実施することができている。

24「情報提供」の項目については、前期比で0.1ポイント低下したものの3.6の数値が示された。継続して学年のたよりや週予定、学級通信の充実、また文書による通知と平行して運用した学校メール配信により、逐次情報の共有に努めている。勤務時間外の電話音声ガイダンス設定時間帯の緊急連絡には、メールによる対応を行うとともに、朝の欠席等の連絡については、フォームによる受付を併用することにより、学校・家庭間の確実な情報の受け渡しと負担減に努めている。

VI その他

25「小中一貫教育の推進」の項目は、前期比で0.1ポイント低下し3.2と低い値が示された。肯定的回答率も92%に低下している。夏季休業中から2学期にかけての専門部会も、重複予定された出張やコロナによる影響から参加できなかつたり実施を見合わせたりしたことがその要因かと思われる。専門部会によつての差異はあるが、記述回答の内容も踏まえ、今後の各部会で具体的内容を明確にし、次年度につなげていきたい。

メモ